

新製品開発におけるフロント・エンド・ローディング

‘Innovative Made in Japan’を導く

— 製品開発の本質 —

(株)ジョンクエルコンサルティング 落合 以臣

A Front End Loading in New Product Development

“The essence of product development”

Shigemi Ochiai, Jonquil Consulting Inc.

*Keywords:* 訪日観光客・爆買い・品質・過去・遺産・エンジニア・開発・異変・感情・処方箋

2015年はモノづくり元年と思い、主に Made in Japan の新たな発見という意味で‘Innovative Made in Japan’と命名して書き下してきました。昨年からはまりました近隣諸国、とりわけ中国、韓国、タイ、その他アジア諸国及び欧米からの訪日観光客が倍増し、爆買いという言葉が流行りました。その恩恵で、貿易収支も改善へと進み、日本の国力も東日本大震災以降停滞気味であったものが、アベノミクスが解き放った3本の矢と同期して、回復の基調を見せ始めているといっても過言ではないでしょう。しかしながら、モノづくりの本質は、それとは逆に後退しているように思います。確かに、爆買いに象徴されますように、Made in Japan の製品は売れましたが、この“売れた”の背景にあるものは、過去からの遺産、言い換えれば、Made in Japan の製品は品質が良いというイメージを持っていることと、SNS サービスを介して事前に調査したうえで買い物の狙いを定めるといった二つのことが功を奏したといえるのではないのでしょうか。

こうしたことに鑑みますと、日本の強さはひとえに製品力、深堀しますとどこにもない新たな製品、あるいは一工夫を加えた製品、誰にも負けない品質のよさ、それらが世界を圧倒してきたといえます。最近、三菱重工が国産ジェット MRJ を大空へはばたかせたことは周知の通りです。新聞、テレビなどの報道によれば、品質の向上、パイロットの視点からの飛行の安全性確保などに相当の時間を費やしたために、当初の予定より4年の開発遅延が生じたそうです。この状況を目の当たりにして、これが日本の底力であり、Made in Japan の象徴であると、改めて意を強く持つことができました。

ここ数年、モノづくりという言葉聞くことが少なくなったように思います。筆者自身も新製品開発を現場で共に実施していますが、開発エンジニアに何か異変が起きているという場面に遭遇することが多くなりました。その異変とは何なのだろうかと思いつつ、今になってわかることは、売れる製品になっていないということから起きる精神力の弱さだと思われます。これは、単純明快な答えでありながら、その解決の処方箋をつくることは難しいかもしれません。しかしながら、先ほどの三菱の MRJ のように、用意周到に“念には念を入れて”の開発では、そのような異変など決して起こりえないことだと思います。では、開発現場でエンジニアに異変が起きていて、仮にその原因が精神力の弱さだとすれば、その解決はどのようなものなのだろうか。それは、筆者の経験から生まれたもので、これが最良とはいえませんが、開発のプロセスを粛々と実施する訴求と開発の過程で起きる葛藤、つまり感情的な要因を徹底して排除するという方法です。簡単に述べますと、新製品開発の過程を徹底して可視化・定量化を行うことであると言えます。この作業で、70%の感情を抑えることができるはずで

2015年も師走に入り、皆様におかれましてはさぞお忙しい日々をお過ごしのことと思いますが、お風邪を引かないようお願い申し上げます。2016年もこの JQ International Review でお会いしたいと思います。少し早いですが、どうぞよいお年をお迎えください。